

国

語

(前期日程・100点)

2月25日(木) 13:30~15:00 (90分)

注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子および別の答案冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は15ページあります。別に答案冊子(答案用紙2枚)があります。
- 3 試験中に問題冊子および答案冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、汚れ等に気付いた場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 監督者の指示に従って、2枚の答案用紙のそれぞれの所定の欄に氏名(1箇所)と受験番号(2箇所)を記入してください。
- 5 試験開始の合図の後に、答案冊子の折り目を丁寧に切り離してください。切り離し損なった人は、静かに手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6 解答は答案用紙の所定の欄に記入してください。所定の欄以外に書いた解答は無効です。
- 7 答案用紙の縦線より右の部分には、氏名と受験番号のほかは記入してはいけません。下寄りに引かれた横線より下の部分には、なにも書いてはいけません。
- 8 問題冊子の余白は下書き用として使ってもかまいません。ただし、どのページも切り離してはいけません。
- 9 試験終了時刻まで退室してはいけません。
- 10 試験終了後は、答案用紙2枚だけを監督者の指示に従って提出してください。
- 11 問題冊子および答案冊子の表紙は持ち帰ってください。

国

語

(第1問・第2問)

第1問 次の二つの問題文を読んで、後の問1～問9に答えよ。(配点 50点)

問題文1

※ 著作権の関係により掲載できません。

(中村桃子『翻訳がつくる日本語』による)

※ 著作権の関係により掲載できません。

(片岡義男『海を呼びもどす』による)

問1 傍線部A「大きく本質主義と構築主義に分けて理解することができる」とあるが、それぞれの考え方を「言葉づかい」と「アイデンティティ」という語句を用いて説明せよ。

問2 筆者は構築主義の考え方が提案されるようになった事情を二つ述べている。それぞれを簡潔に述べよ。

問3 文中の空欄

①

 と

②

 に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 全体―部分 イ 原因―結果 ウ 必然―偶然 エ 目的―動機 オ 記号―実体

問4 傍線部B「幻想」とあるが、この幻想は自分の統一性を感じさせるといふ現実的な働きを担っているものである。それを筆者はなぜ幻想と呼ぶのか、本文を参考に答えよ。

問5 傍線部C「標準語」の説明として本文の内容に沿うものを、次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 標準語は、話し言葉としては意図的にしか使わない不自然なものであるが、正確な情報伝達を行おうとする特別な場合に適した言葉づかいである。

イ 標準語は、書き言葉としては普通に用いられるものであり、小説などにおいて、多くの読者の理解や共感を得られる言葉づかいである。

ウ 標準語は、中立的で普通であることを表現するものとして、女ことばや方言が表している特性や違いを際立たせることになる言葉づかいである。

エ 標準語は、学校教育を通じて身につけていく歴史的に作られたものなので、日本語を使う人々との連帯感を容易に表現できる言葉づかいである。

問6 傍線部D「知識」とあるが、知識としての言葉づかいについて説明した次の文章の空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる語句を、自分で考えて答えよ。

人物像が単純化されてはいるが、それを用いれば他人にすぐ理解してもらえ、便利な決まった型である。このようなものを(Ⅰ)と呼ぶ。これは便利なものではあるが、マンガや翻訳などで擬似田舎ことばが安易に用いられることが特定の人物像や言葉づかいに対する(Ⅱ)を生んで広めてしまうといった問題もある。

問7 傍線部E「女言葉で喋っても、いいですか」とあるが、野崎敬子にとって女言葉はどのようなものなのか。問題文Iの本質主義と構築主義のそれぞれの側面から答えよ。

問8 傍線部F「どうぞ」とあり、ここで主人公は野崎敬子に女言葉で喋ることを認めているが、作者は、この主人公の発言の前に、すでに野崎敬子に女言葉で喋らせている。作者はそのことによつて何を表現しようとしたと考えられるか。本文を参考に、次の文章の空欄を自分の言葉で埋めよ。

傍線部の前の野崎敬子の発言の中に、女言葉で喋らないことが「すこしも苦にならなくなった」、女言葉ではない喋り方が「すっかり身につけてしまった」とあることから、野崎敬子は、普段であれば女言葉で喋らないように自然に自制できているのであろう。それなのに、主人公に対してつい女言葉を使ってしまうほど、()を表現していると考えられる。

問9 傍線部G「しどけない女言葉」とあるが、どのように喋る女言葉を指しているか、本文を参考に答えよ。

国語の試験問題は次のページに続く。

第2問

次の文章は中島敦「狐憑」の一部である。古代の遊牧民族の一人シヤクは、戦闘で殺された弟の魂が乗り移ったように最初はうわごとを話していたが、それをきっかけにして次第に動物や人間の霊が取り憑いたかのように様々な話を語り始めた。

この文章を読んで、後の問1～問9に答えよ。(配点 50点)

※ 著作権の関係により掲載できません。

(中島敦「狐憑」による)

問1 二重傍線部①③の言葉の意味を、それぞれ簡潔に答えよ。

問2 波線部a・bのカタカナを漢字にせよ。

問3 この話はどのように展開しているか。話の順に次のア～カの各項を並び替えよ。

ア シヤクは身近な人間達を題材として話をするようになった。

イ シヤクが様々な自然や動物について語り始めた。

ウ シヤクから憑きものが落ち、彼は何も物語れなくなってしまった。

エ シヤクの語りに磨きがかかり、物語の構成も描写も一層巧みになっていった。

オ シヤクは長老達の怒りを買ひ、聴衆は徐々にシヤクが働いていないことに気づき始めた。

カ シヤクの語りは憑きものによるのではなく、作り話ではないかと思う者が出てきた。

問4 傍線部A「シヤクの方でも(或いは、シヤクに宿る霊共の方でも)多くの聞き手を期待するようになった」とあるが、なぜ「多くの聞き手を期待するようになった」のか。その理由を説明せよ。

問5 傍線部B「普通のいわゆる憑きもの」と傍線部C「一種の憑きもの」の違いとは、どのようなものか。次の文の空欄Ⅰ・Ⅱを自分の言葉で埋めることによって、その違いを簡潔に説明せよ。

「普通のいわゆる憑きもの」は（Ⅰ）だが、シャクの場合は（Ⅱ）という意味で「一種の憑きもの」と言える。

問6 空欄に当てはまる最も適切な二字の熟語を記せ。

問7 長老とその取り巻きはなぜシャクを排斥しようとしたのか。その理由を三点挙げよ。

問8 傍線部E「実際、シャクは何もしなかった」とあるが、その手前では傍線部D「自分の演じている役割」とあり、シャクに「役割」があると書き手は記している。矛盾するかに見えるこの二つの箇所を、どのように結びつけて読むのが適切と考えられるか。次の文の空欄Ⅰ・Ⅱを自分の言葉で埋めることによって、簡潔に説明せよ。

（Ⅰ）という意味では確かに「何もしなかった」が、

（Ⅱ）という「役割」を引き受けていた。

問9 傍線部F「多くの物語をシャクに語らせた憑きものが、最早、明らかに落ちたのである」とある。シャクから憑きものが落ちたのはなぜか。その理由を本文に即して簡潔に答えよ。

令和3年度 一般選抜 前期日程

問題訂正

「国語」 13:30開始

・第1問 3ページ 後ろから2行目

誤「人間間係」 → 正「人間関係」

・第1問 4ページ 1行目

訂正前「髮形」 → 訂正後「髮形」

・第2問 本文1行目

訂正前「種々雜多」 → 訂正後「種々雜多」